

◆ 2024 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO法人 環境ネットワーク埼玉

27A-26

代表者：代表理事 星野 弘志

URL : <https://www.kannet-sai.org/>

1. 活動が必要とされた状況

埼玉県内の SDGs 目標達成においては、基盤となる環境保全が重要である。目標達成には、環境保全活動をさらに活発化する必要がある。その一つの支援策として、環境活動を実践している関係者を一堂に介した情報交換、相互交流及び情報発信ができる場が必要と考える。学生からシニアまで世代を超えた者が意見交換の場に参加することにより、連携、協働、パートナーシップの関係を創出し、環境保全活動が深まることが期待できる。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

『第6回 SDGs エコフォーラム in 埼玉

～つながろう 広がろう 世代を超えて エコの環～』

〈実施時期〉令和6年12月7日（土）10:00～16:30

〈会 場〉獨協大学草加キャンパス（オンライン併用）

〈参加人数〉312名（会場277名、オンライン35名）

〈主 催〉第6回 SDGs エコフォーラム in 埼玉実行委員会

埼玉県地球温暖化防止活動推進員、自治体、環境団体、企業等を構成員とし、企画・準備・運営を行った。

〈内 容〉

- ・ 基調講演「イギリス文化と自然」 前沢 浩子氏（獨協大学学長）
- ・ 高校生 SDGs スピーチ 香東 卓郎氏 獨協埼玉中学高等学校サイエンス部 顧問
- ・ 埼玉県地球温暖化防止活動推進員感謝状贈呈式&埼玉県エコアップ認証事業所表彰式
- ・ 分科会①地域の居場所から見える省エネ
 - ②土から作物まで作ろう・・・あなたの手で
 - ③私たちが共に手を取り合う SDGs な街づくり
 - ④生物多様性の保全から生態系の維持そして未来へ
 - ⑤若者が創造する脱炭素な未来
 - ⑥都市と地方が支えあう脱炭素まちづくり



午前の部の様子



分科会の様子

3. 活動の成果

当フォーラムは、今回も大学の協力を得て開催することができた。地域の市民や事業者、高校生、在校生、他大学生等多様な世代の参加を得ることができた。大学での開催だったため若い世代の参加が多く、意見交換等を通して SDGs や脱炭素について自分事として捉える機会が創出され、次世代へと繋ぐことができた。さらに、6つの分科会を設置することで、地域における街づくりモデルや地域と地方の連携モデル等の議論も行うことができた。

4. 今後に残された課題

今回もオンライン併用で参加する方法を用いたが、オンラインでの参加者が昨年以上に減少した。今後、参加方法のあり方について検討が必要である。例えば、オンラインで参加できるメニューを限定する等。当日会場に赴く参加者も減少しているため、募集の仕方やフォーラムの内容を魅力あるものに高める必要があると感じる。そのためには、企画、広報や周知方法、連携の拡大等について工夫が必要である。